

輝く未来は ここから始まる

YAMAGATA UNIVERSITY
FACULTY OF MEDICINE
DEPARTMENT OF MEDICINE

2024

山形大学 医学部 医学科ガイド

世界にはばたく 医療人をめざして

医学、医療の道をめざすこと。
それは未来と人を見つめ、未知の領域に挑むこと。
視野は広く、心は熱く。
山形大学医学部は、人として、医療人として、
あたりまえのことがあたりまえにできる
医師と研究者を育みます。



Contents

01 建学の精神と教育目標	12 カリキュラム	28 卒後臨床研修
02 学部長あいさつ	14 1年次	30 サークル活動
03 病院長あいさつ	16 2年次	32 学生生活データ
04 山形から未来へ	18 3年次	34 入学試験データ・ 医師国家試験データ
06 世界最先端の研究と医療	20 4年次	35 医学科学生の出身高校
08 世界でもTOPレベルの 医学研究と医療提供	22 5年次	36 キャンパスマップ
10 医療のスペシャリストを 目指して	24 6年次	37 ACCESS
	26 先輩からのメッセージ	

医学部 医学科

Faculty of Medicine Department of Medicine

—最先端の医学・医療研究の実践
そして世界にはばたく医療人へ！—

[建学の精神]

人間性豊かな、考える医師の養成

医学科の教育目標

地域に根ざした国際的視野を持ち、知識や技術を自ら学び、考え、活用し、さらに発展させる能力を涵養し、生命の尊厳を理解し、高い倫理観を身につけ、多様な人生観を受け入れることができる人間性豊かな、高いコミュニケーション能力を持つ医師を育てることを目標としています。

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

- ・生物学・医科学分野に対する広い興味を持ち、科学的研究心が強く、旺盛で持続的な学習意欲を持つ人
- ・心身ともに健康で、柔軟性に富み、倫理性の高い人
- ・協同作業を行う人々と円滑な人間関係を形成できる高いコミュニケーション能力を持つ人
- ・地域医療を含め、幅広く医療に貢献することへの志と強い使命感を持つ人



山形大学医学部

Yamagata University Faculty of Medicine



いかなる時でもしなやかに能力を発揮する医学・医療人を育む山形大学医学部

3年以上続いた新型コロナウイルス感染症パンデミックからようやく感染症を意識しない生活が戻りつつある状況でこの案内を記させていただきます。今回のパンデミックを経験して、これからの本医学部についてご紹介したいと思います。

山形大学医学部は建学の精神として「人間性豊かな、考える医師の養成」を掲げ、1973年(昭和48年)に設置されました。そしてそのミッションとして「①山形大学の理念等に基づき、人間性豊かな自ら考え解決する力を持つ医師・研究者等の養成を積極的に推進する、②地域医療機関等とのネットワークを活かし、医師確保や地域医療の向上、がん医療人材養成等に向けた我が国のモデルとなるシステムを確立し、県内の地域医療を支えながら高度医療を行う医師の養成を積極的に推進する、③予防医療やオーダーメイド医療、革新的な治療法等の開発に向けたゲノムコホート研究や、臨床応用を見据えた出口戦略と一体化したがん創薬研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すと共に、次代を担う人材を育成する、④県内唯一の医育機関および特定機能病院としての取組みや地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター等としての取組み等を通じて、山形県における地域医療の中核的役割を担う。」ことを挙げています。

これらの4つのミッションはいかなる社会状況にあっても私ども山形大学医学部が存在している限り全く揺らぐことのない大きな使命です。そして、私たちの周囲の社会的困難が大きければ大きいほど、私たちのミッションの意味は大きくなります。そして、私たちはそのミッションに対して、全員がその意味するところを理解して共有し、誇りに思いうる堅固な教育機関であらうとしています。

これまで私たちがどのように取り組んできたかをご紹介します、私たちがどのような未来像を目指しているかについても述べたいと思います。

山形大学医学部は一県一医科大構想の第一期校の一つとして1973年に創設されました。その経緯は、1968年12月13日山形県に山形大学医学部設立準備委員会が設置され、当時の山形県知事(安孫子藤吉氏)から山形大学長(廣根徳太郎先生)宛に医学部設置についての協力の文書が提出されたところから始まりました。そして1973年9月29日国立学校設置法の一部を改正する法律(1973年法律103号)の公布施行により山形大学医学部が設置されたのです。山形大学医学部の設置は山形県、山形市が山形大学に要請し、日本の医学・医療を担う若者を育む精神で一致し開校したといえます。したがって、山形大学医学のステークホルダーは、日本国、山形県、山形市などすべての公的組織であり、そのステークホルダーである日本国民、山形県民、山形市民でもあります。この地域の方々には山形県の医療を山形大学医学部に託し、逆に山形大学医学部にも地域に対して大きな責任が生じ、我々はそれに応えるための努力を続けてきたのです。

皆さんもご承知の通り、医学は常に進んでいます。問題を一つ解決しても新たな課題が現れてきます。生体としての人間が生きている限り何らかの課題があり続けるため、問題が「0」となることはない世界です。かつては人類にとって大きな脅威であった疾患が科学技術の進歩によって解決された例は医学の大きな成果ですが、一方考えられもしなかった次なる大きな課題が出現するのです。新型コロナウイルス感染症もその一つです。一方、人類の平均余命が50～60年であった頃には考えもしなかった認知症などの神経疾患や血管の脆弱性による疾患は現代人にとって大きな脅威となっています。またがんは有史以来常に人類にとって大きな脅威です。このような脅威に立ち向かっていく学問が「医学」であり、これは生命科学を中心とした自然科学の一分野でもあるし、工学や理学といった分野との複合領域でもあるのです。そして現在の医学はより精緻・正確な医療(precision medicine)を実践するために、新たな患者さんの遺伝子から病気の成り立ち・原因(病態)を明らかにし、もっとも適切な治療を行うことを目指しています。山形大学医学部はこの未来医学

を志向しています。最先端のがん治療としての重粒子線治療装置開発、地域に密着した最先端の分子疫学研究により疾患が発症する前に対応する先制医療の開発などで世界の医療をリードしています。

山形大学医学部が最も大切にしていることは学生教育です。教育手法は時代により変化していますが、その本質は変わりません。私たちは、建学の精神を尊重し、そこに明記された理念を実現するために多くの先進的取組みをしてきました。

その一例として挙げられるのがStudent Doctor (スチューデント・ドクター)制度です。これは、それまでの医学部教育、特に臨床実習については質・量ともに不十分な傾向があったため、臨床医学教育を臨床現場で医療チームに加わって学ぶ参加型臨床実習という当時最先端の医学教育システムをスチューデント・ドクター制度として2008年度導入したものです。このスチューデント・ドクターによる医師育成は、今では日本の全ての医科大学・医学部で行われています。また、山形大学医学部では、4年生から74週の長期に及ぶ臨床実習を実施していて、さらに2001年からは大学病院と連携しながら地域基幹病院で臨床実習期間の一部を実施するシステム(広域連携実習)をつくりました。このような臨床現場での教育は優秀な臨床医を輩出する原動力になるものです。

さらに国際レベルの医学教育に対応するため、他の大学に先駆けて2016年度に第1回目の日本医学教育評価機構による外部評価を受け国際標準の医学教育プログラムとしての認証を受け、2023年の1月には2巡目の外部評価を受けています。これらの外部評価は、自分たちの教育プログラムが第三者の視点から適切なものであるか、ということ自ら省みる良い機会となっています。先の国際認証評価の受審にあたり、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを確認し、コンピテンシーを意識したカリキュラムマップを整備するなど現代の教育システムに対応したものを整理しました。

我々が大切にしているのは絶えず現状に満足することなく時代を先取りする教育システムを構築することで、その本質は「自ら考え解決する力を持つ医師を育成する」というミッションを実現するためのものです。

今回の新型コロナウイルス感染症の流行の状況下でも私たちは「教育」を大切に考えてきて、いち早くWebベースの講義を実施するとともに解剖・臨床実習の再開も実践しました。未曾有の事態というのは、これまでの医学生が受けたことのない経験をする機会でもあるのです。その点で、今回の新型コロナウイルス感染症は我々の教育の現場にデジタルトランスフォーメーション(DX)を促す大きなきっかけになっています。単に「大変だ」ということだけでなく、このような状況下で「何ができるのか」「何をしてはいけないのか」などということを自ら積極的に考えてこの困難な時期を前向きに過ごしてくれた山形大学医学部の学生諸君を、我々教職員は頼もしくまた誇りにしています。いかなる状況をも乗り越える「しなやかさ」を育むトレーニングにしてしまう、この柔らかない強さは若い世代の皆さんの特権でもあります。

もちろん医学の学習以外にも、山形大学医学部には青春の一時代を過ごすに最適な自然環境があります。豊かな四季それぞれの彩りや、雄大な蔵王山麓を背景に部活動に打ち込む学生も数多くいます。一度しかない自分の青春の日々をいかに過ごすか、自ら考え抜いていただきたいと思います。そして是非皆さんの医学に対する思い・夢をここ山形の地で叶えていただければと思います。

このような歴史・使命を持つ本学部は、今年の秋には創立50周年を迎えます。これからの50年、100年を見据えて本学は絶えずさまざまな活動において学生・教職員・ステークホルダーと共にチャレンジを続けていきます。

山形大学医学部附属病院

Yamagata University Hospital



地域に根ざした先端医療と教育の拠点

このガイドをご覧の皆さんは既に医学の道への志を持ってページを繰られていると思います。私からは、山形大学医学部での医学教育課程における附属病院(大学病院)の役割とその特色をご紹介します。

大学病院は医学部での教育、研究に必要な機能を確保するために設置されている病院ですが、同時に地域住民に高度な医療を提供するという役割を有しています。当院は高度な医療の提供、高度な医療技術の開発・評価、高度な医療に関する研修、高度な医療安全管理体制を備えた病院として、山形県内で唯一の特定機能病院の承認を受けています。大学病院は教育・研究と臨床医学を結びつける重要な拠点であり、国内外のトップレベルの医師やスタッフの指導の下に、医学生や若手医師が最新の医学知識を学び診療技術を磨くことができます。また、当院では研究活動にも力を注いでおり、新たな診断、治療法の開発に取り組んでいます。このような教育・研究の成果が医療現場に反映され、患者さんに最適な医療を提供することにつながります。

さて、皆さんが医学科に入学されたのち、最初の約3年半で基礎医学と臨床医学の知識を身につけてもらいます。その後、臨床実習前に到達しておくべき知識はCBT (Computer Based Testing)、技能と態度はOSCE (Objective Structured Clinical Examination) で評価され、合格した学生がStudent Doctor (学生医師)として大学病院や県内の実習受入施設で臨床実習を行うことができます。令和5年度からは医学生が臨床実習で医療行為を行うことを法的に担保するために、これら2つの試験に合格することが条件となりました。このことは、卒業後の臨床研修から専門研修への一連の医師教育プログラムの中で卒業前の臨床実習の重要性が増すことを意味します。山形大学では、臨床実習に多くの時間を割いており、そのほとんどが大学病院での実習となりますが、優れた指導医が親身になって教育に当たっています。

現代の医療は急速に進歩しているとはいえ、未だに解決されていない臨床的な問題が山積しており、それらの解決には基礎研究と臨床試験が重要な役割を果たしています。大学病院では診断、予防技術の開発のための臨床研究や新たな治療薬の効果や安全性を確認するために行われる治験と呼ばれる臨床試験が行われており、医療の最前線で研究と臨床を結びつけることで、医療の進歩と社会貢献に寄与しています。また、山形大学では「山形県コホート研究」で多くの研究成果を上げており、平成30年には「山形バイオバンク」を立ち上げ、大学病院を受診された患者さんから同意を得て血液や組織を保管しています。将来的にこれらの検体の解析データと臨床データを統合させることによって、病因の解明や新たな診断法、治療法の開発に役立つものと期待されます。

大学病院では最先端の技術を用いた高度な医療を行っています。なかでも、2021年2月に治療を開始した東日本重粒子センターでは、山形大学が最も注力している先端医療である重粒子線治療を行っています。当センターの重粒子線

治療装置は山形大学が設計の段階から関与し、従来の装置と比較して大幅な省エネルギー・省スペースを実現しました。日本で7番目、北海道・東北地方では初となる当重粒子線治療施設は、世界でも3か所しかない回転ガントリーを有しており、癌病巣への集中的な照射を可能にしています。また、省スペース化により大学病院とは廊下で直接接続されており、併存症や病気による症状を有する患者さんも安心して治療を受けることができます。保険診療で重粒子線治療ができる疾患は徐々に拡大されており、山形県に留まらず他県からも多くの患者さんが来院しています。既に、1,000名以上の患者さんに対して治療を実施しており、低侵襲かつ効果的な治療選択のひとつとして貢献できるものと期待されています。

これ以外にも、多くの先端医療技術を用いた診療が行われています。最近の外科治療にはロボット支援手術が欠かせないものとなってきておりますが、2023年度からは最新の機器を導入し、2台体制での運用を行っています。新機種は2台の術者用コンソールを備えており、うち1台は医学生や専攻医の教育用として利用しています。ロボットは外科手術のみならずリハビリテーションでも活躍しています。さらに、当院ではバーチャルリアリティーなどの技術を応用した最先端の機器を導入し、急性期の治療が終わった患者さんの早期の自立や社会復帰を積極的に支援しています。他にも、ハイブリッド手術室では3次元コンピュータ断層撮影(CT)もできる高機能の血管造影装置を用いて、高度な血管内治療を行っており、低侵襲な治療を安全にかつ迅速に行うことを可能にしています。

現代の医療においては診療科や他職種との連携が極めて重要です。そのひとつとして、大学病院では2007年から他施設に先駆けてキャンサートリートメントボード(CTB)を実施しています。CTBでは幅広い分野の専門家の意見を集約して、患者さんに最適な医療を提案しようとするものです。担当科のみではなく多職種で治療法が議論される現場は医学生にとっても貴重な学修の場となっています。また、がん治療ではがん遺伝子パネル検査による治療選択の提示が必要な時代になってきています。当院は全国で33施設あるがんゲノム医療拠点病院に指定されており、パネル検査の結果についてエキスパートパネルと呼ばれる専門家会議を開催し、検査結果の医学的解釈と推奨される薬剤や臨床試験を検討することができます。がん医療に関しては、重粒子線治療やロボット支援手術とならび遺伝子異常に基づく薬物療法の拠点病院となっています。

最後に、山形大学医学部附属病院では、指導医をはじめ職員一同、積極的に学び続ける姿勢を持つ創造的な医師の育成に取り組んでいます。我々は、医師になるという尊い志を持つ皆さんが、山形大学でその夢を叶えるためのスタートを切ってもらえることを心から願っています。

【固定照射室】



山形大学医学部の視点 1

山形から未来へ

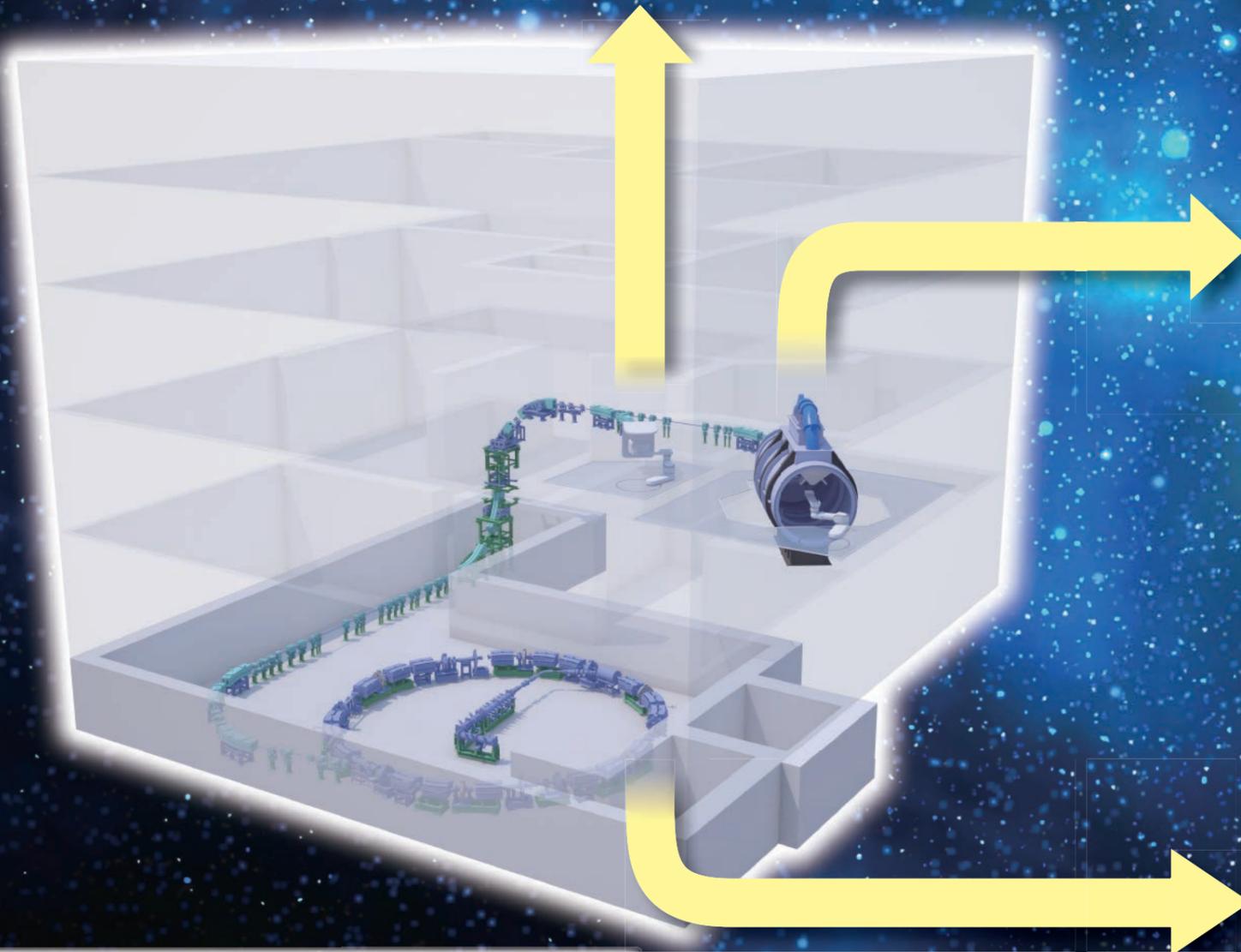
山形大学医学部では、最先端のがん治療法である「重粒子線がん治療」施設として、山形大学医学部東日本重粒子センターを開設し、令和3年に治療を開始しました。本学医学部で学ぶ学生たちは、最前線のがん治療の現場に刺激を受けながら、医師になるための修練に日々励むことになります。

※ P8「医学部がんセンターと重粒子線がん治療の教育・研究」もご覧ください。



【超伝導ガントリを使用した照射室】

中央の患者に対し、上部のラップ部が360度回転し任意の位置から照射可能。



【山形大学医学部 東日本重粒子センター内の機器レイアウト】

下方の円形な装置がシンクロトロン加速器。炭素の原子核を光速近くまで加速させた「炭素イオン線」を用いて、体の外から“がん腫瘍”を狙い撃ちする。



【シンクロトロン加速器】

設置されたシンクロトロン加速器（緑の装置が連なっている部分）。全景（左）と、ビーム輸送装置の写真（上）。ビーム輸送装置の縦長写真に写っている人の高さから、その大きさがうかがえる。



山形大学医学部の視点 2

世界最先端の 研究と医療

最新のオペレーションシアターなど、山形大学医学部はより安全で快適な治療法を追求するとともに、がん治療における世界最先端の研究なども行っています。

世界でもTOPレベルの医学研究と医療提供 医学部がんセンターと重粒子線がん治療の教育・研究

近年の“がん”医療では、治療後の患者さんのQOL(“quality of life”=生活の質)が重視されており、患者さんが持つ生活の価値観に合致するように「手術」「化学療法」「放射線治療」をうまく組み合わせながら治療方針が決定されています。このうち放射線治療は、ここ10数年ほどの間に治療装置の機能・性能が飛躍的に拡大し、“がん”の種類によっては放射線治療だけで手術と同等の効果が得られています。

山形大学医学部で稼働中の「山形大学医学部 東日本重粒子センター」(図1)は日本の優れた“がん医療”と“科学技術”の融合により世界に先駆けて実用化された日本発の重粒子線がん治療施設です。従来利用されてきた電磁波の一種であるX線ではなく、炭素の原子核を光速近くまで加速させた「炭素イオン線」を用いて、体の外から“がん腫瘍”を狙い撃ちします。重粒子線の利点は治療効果(電離作用)をもたらす範囲を“がん”腫瘍の位置、形状に合わせて照射可能で、正常組織への影響を抑えながら“がん”腫瘍に線量を集中させることです。また、従来の放射線では効果が弱かった放射線抵抗性の“がん”に対しても良好な成績が得られています。既に、前立腺がんや膵臓がんなど8種類のがん治療が公的保険の適用となっており、今後も拡大が予想されます。

「山形大学医学部 東日本重粒子センター」は大学附設の施設としては群馬大学に次いで国内2施設目であり、日々の臨床だけでなく教育と研究の拠点たらんことを期待されています。医学部の学生は

4年～5年次に実習の一環としてセンターでの治療の様子を見学するカリキュラムが組まれており、最先端治療の現場を肌で感じることが出来ます。ビームの角度を自由に換えられる回転ガントリーや、細いビームを走査して照射を行うスキャンング照射装置を持つ大学は本学だけであり、これらを駆使して新しい治療法を開拓していくのに最適な環境が揃っています。



(図1) 山形大学医学部東日本重粒子センター

山形バイオバンク

多くの協力のもと、オーダーメイド医療の実現を目指して

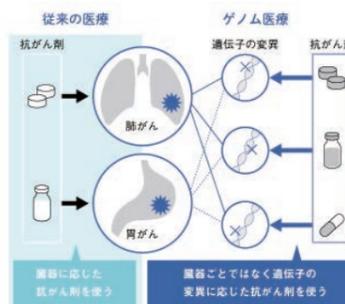
「ゲノムとは何か」。人間の体は細胞でできています。その細胞の核にあるDNA(デオキシリボ核酸)の一部分で、細胞を構成する一個一個の物質の作り方を決めている暗号の部分を遺伝子といいます。「ゲノム」は、そういった遺伝子全部を含むDNA全体、細胞そのものの設計図のことを指します。

遺伝子の並び方に変化が起こるとがんができてしまいます。その原因を解析し治療に役立てようとする「ゲノム医療」が世界で注目を集めており、山形大学医学部では、既に平成30年6月から「山形バイオバンク」の運用を開始し、同意を得た患者から血液などの生体試料を採取、蓄積しています。それらの生体試料から、細胞の設計図であるゲノムの「暗号」を解読し、今まで分からなかった遺伝子

の変化を見つけることで、一人ひとり違う「変化した遺伝子とその働き」を発見し、その働きを元に戻すような薬を作ることができれば、一人ひとりにあった「オーダーメイド医療」の実現も夢ではありません。

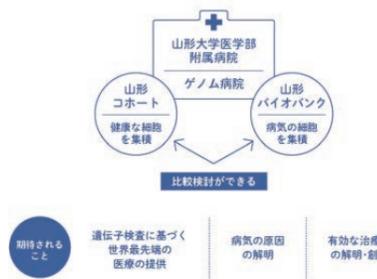
また、本学医学部では、病気発症の遺伝的要素と生活習慣の関係性を解明することを目的とした「山形県コホート研究」を実施しており、既に2万人の健康時データを保有しています。それに対して、「山形バイオバンク」では来院者(病気を発症している人)のデータを保有しています。その両方のデータがあることは大きな強みであり、それらを比較し、解析することで、様々な治療法の研究・開発が進むことが期待されます。

従来の医療とゲノム医療のちがい



病気の発生や進行、症状、治療効果、副作用などは患者一人ひとり異なるが、従来の医療では標準的な治療を行いながら個々に合った治療法を模索していくしかない。度重なる検査や治療薬による副作用などで心身両面での消耗が激しい。しかし、これがゲノム医療によってオーダーメイド医療が実現すれば、当初から個々に最適な治療を選択できるため、身体的にも経済的にもメリットは大きい。

山形バイオバンクがオンリーワンの理由



「山形バイオバンク」の強みは、歴史あるコホートの存在。健康な県民から遺伝子情報をはじめ様々な情報を預かり、研究に役立てることができる環境が整っている。健康な人の細胞と、病気の細胞を比較することで感受性遺伝子、つまり、がんになりやすい遺伝子を見つけることができる。

世界最高水準の手術治療を可能とする オペレーション・シアター

附属病院の手術室は、平成20年7月より新病棟3階に「最新のオペレーション・シアター」として生まれ変わりました。ここには、日本で3台目となる高磁場術中MRI診断装置をはじめとして、最新鋭の手術器械を取り揃えた12のシアターがあります。手術用ロボッ

ト(ダヴィンチ)を使った最先端手術やナビゲーションサージェリーに加え、平成27年9月からは、ハイブリッド手術室が稼働し、各分野のエキスパートが最高水準の手術治療を提供しています。



ハイブリッド手術室



術中MRI



ロボット手術

より安全・確実で、より低侵襲な手術を目指す 先端内視鏡手術センター

内視鏡手術には、標準的な手術から高度な専門性が必要な技術まで、求められる手術技能に幅があります。先端内視鏡手術センターでは、手術に係る諸条件の設定を行い、手術成績についても客観的な評価を行うことで、より安全で確実な手術を可能としていきます。

また、若手医師・研修医・学生の教育システムを確立し、様々な手術技のトレーニング等を行い技術の習得・向上をサポートするとともに、最新の医工学技術を駆使した手術の開発を行い、より患者さんにも術者にも優しい手術を目指します。



安全で高度な先端内視鏡治療



シミュレーターによるトレーニング

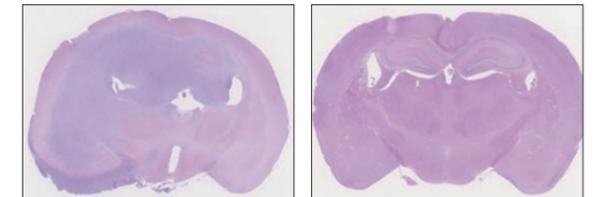


セミナー開催により情報を共有

がんの「治癒」を目指す最先端がん研究

山形大学医学部はがん治療だけでなく、がん研究でも他の追随を許さないオリジナルな研究を展開しています。その一例として、近年私たちは糖尿病薬に悪性脳腫瘍の再発予防効果があることを世界に先駆けて発見しました。意外かも知れませんが、実はがんに含まれるがん細胞のうち「大部分」は抗がん剤や放射線に弱く再発の原因にならないがん細胞です。一方、再発のもととなるがん細胞は「がん幹細胞」と呼ばれる特殊ながん細胞です。がん細胞のうちごく少数ですが治療に対して著しく抵抗性で、通常のがん治療により他の大部分のがん細胞が死滅した後も生き残り、再発の原因となります。今までのがん治療は一見効いてがんが消えたように見えても再発がおきてしまうため根治が不可能でしたが、最近になってがん幹細胞の存在がその原因であることがわかってきました。これはすなわち、がん根治療法開発にはがん幹細胞治療法開発が必要であることを意味しています。そこで私たちはまずがん幹細胞ががん幹細胞であり続けるための仕組みを分子レベルで解明し、続いてその仕組みを働かなくするための薬を探しました。その結果、全く予想外なことに、

糖尿病の薬メトホルミンにがん幹細胞治療効果があることを発見しました。面白いことに通常のがん細胞にはメトホルミンはほとんど効かないため、今まで誰にも気づかれなかったようです。メトホルミンは脳腫瘍のみならず様々ながんのがん幹細胞に有効であることが明らかになりつつあります。近未来は糖尿病薬を応用することで再発を予防し、山形発のがん根治療法が実現できるかも知れません。



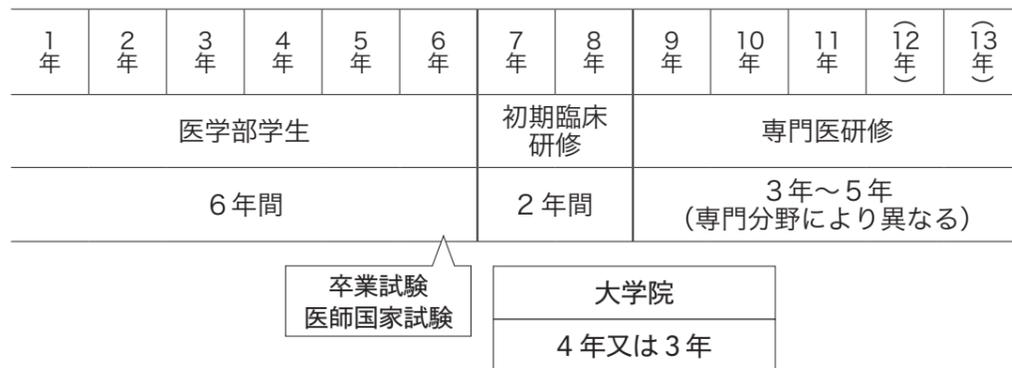
再発実験結果(マウス脳断面)：糖尿病薬の治療を受けていない脳腫瘍(左)は大きな再発腫瘍(脳左半分に広がる薄紫色の範囲)を形成したが、治療を受けた脳腫瘍(右)は全く再発腫瘍が見られなかった。

医療のスペシャリストを目指して

～医師になるためのキャリアパス～

晴れて医学部に入学すると、いよいよ医師への道がスタートします。最初の目標は卒業と医師国家試験の合格ですが、その後も研鑽は続きます。

山形大学では、卒業臨床研修センターや大学院医学系研究科を設置し、皆さんが医療のスペシャリストになる道をサポートします。



初期臨床研修とは～一人前の医師になるために～

国家試験に合格し、医師免許の交付を受けても、まだ一人前の医師とはいえません。診療に従事するためには、2年以上、大学病院などで「初期臨床研修」を受けなければならないからです。この研修では、様々な診療科で指導医のもと診療行為を行い、研鑽を積みみます。
※詳しくは、P28卒業臨床研修のページをご覧ください。

初期臨床研修を終えると・・・

初期臨床研修を終えれば、一人前の医師として制度上認められ、医師としての本格的な活躍がスタートします。

しかし、飛躍的な進歩が続く医療の現場で活躍していくためには、更なる研鑽の機会を求め、専門医研修や大学院での修学、また、専門医の取得など常に最新の技術・情報等を得ることがとても重要です。

専門医研修とは～専門医の取得～

現在、初期臨床研修を終えた後、ほとんどの人は引き続き専門医研修を受けています。専門医研修では、高いレベルの専門知識と医療技術を学んでいくとともに、より責任のある診療行為を担当するようになります。

また、専門医研修では、各分野の学会が定めた所定のプログラムを修了することで、当該分野の「専門医」に認定されます。

専門医とは、日本専門医機構が各基本領域学会と協力して認定する資格で、それぞれの診療領域における適切な教育を受けて、十分な知識・経験を持ち、患者から信頼される標準的な医療を提供できるとともに、先端的な医療を理解し情報を提供できる医師のことを言います。

山形大学医学部附属病院で受けられる専門医研修プログラム

山形大学では、各診療科が専門医に要求される研修内容に対応して緻密に組まれた独自の専門医養成プログラムを提供しています。

- 山形大学医学部附属病院 内科専門医研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院 小児科研修医（専攻医）研修プログラム
- 山形大学医学部 皮膚科研修プログラム
- 精神科領域専門医研修プログラム
- 山形大学 外科専門研修プログラム
- 山形大学 整形外科専門研修プログラム
- 山形大学 産婦人科専門研修施設群 専門研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院 眼科専門研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科専門研修プログラム
- 山形大学医学部 泌尿器科専門研修プログラム
- 脳神経外科専門研修 山形大学医学部プログラム
- 山形大学医学部附属病院 放射線科専門研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院 麻酔科専門研修プログラム
- 山形県・山形大学医学部 病理専門研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院 救急科専門研修プログラム
- 山形県リハビリテーション科 専門研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院 総合診療専門研修プログラム

※ 2023年3月時点

大学院の進学～博士号の取得～

医学部を卒業後に、さらに専門分野の知識を深め、また研究活動を進展させたい人は、大学院に進学します。山形大学では、大学院医学系研究科医学専攻を設置し、指導教員と一体となって医学領域の最先端の知識・

技術を学び、自らが課題を解決する能力を身につけることで、高度な研究・判断能力を有した研究者や指導者になることを目指しています。

また、同研究科に先進的医科学専攻を設置し、学際的な新しい学問分野の開拓を目指す学生にも門戸を開いています。

山形大学大学院医学系研究科の構成

医学専攻（博士課程4年）

先進的医科学専攻（博士後期課程：3年）

医学科

人間性豊かな“考える”医療人の育成を目指します

4年次という早期から行う日本でも有数の長期間の臨床実習での実践をはじめ医療人の育成に努めています

本学科のカリキュラムは「広い視野をもち、自ら学び、考え、創造し、それらを発展させることができる医療人を育成する」という創設以来の基本理念のもとに作られています。6年間の医学教育において将来にわたり通用する医学知識・技術を学生に習得させることは不可能なので、医学部教育においては、基本的な医学知識・技術と共に、医学の進歩に対応し、自ら「学び、考え、創造する」能力と意欲を開発することに重点を置いています。また医療の対象は人間であるため、生命の尊厳を知り、医療人としての倫理観を身につけ、多様な人生観を受け入れる「人間性豊かな医療人の育成」は、本学の医学部教育における、もう1つの大きな柱になっています。



CURRICULUM

－優れた医師の育成のために現場で教育します－

1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
「良き医療人」となるために身につけておくべき基本的事項を学びます。	基礎医学全般を学び、臨床医学に進むための必須知識の理解を深めます。	診断・治療法の基本を学び、研究室研修を通して希望分野の理解を深めます。	診断・治療法の実践を学び、試験合格後、臨床実習生(医学)として臨床実習に取り組みます。	蓄えた知識を実際の臨床現場で確認し、検査、診断法、治療法の理解を深めます。	医療チームの一員(臨床実習生(医学))として診療に携わり、2月の国家試験に備えます。
医学基礎教育科目	専門教育科目	専門教育科目	専門教育科目	専門教育科目	専門教育科目
基礎生命科学 化学 生物学 物理学 早期医学・医療体験学習	免疫学 微生物学 解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学 生体薬理学 病理学総論 基礎腫瘍学 局所解剖・画像診断特論	社会医学・医療学 臓器疾患学 基本診断学 循環器コース 血液コース 呼吸器コース 腎・尿路コース 内分泌・栄養代謝コース 消化管コース 肝・胆・膵コース 生殖器コース 周産期(含新生児)コース 神経コース 運動器コース 感覚器コース 精神系コース 皮膚コース1 皮膚コース2 病理学各論 研究室研修	社会医学・医療学 全身性疾患学 感染症 免疫・アレルギー 成長・発達・遺伝・発生 加齢・死・環境 診療の基本 総合医学演習 基本診療学 基本的診療知識 症候・病態学 基本診療技能学 見学型臨床実習(ベッドサイドラーニング)	見学型臨床実習(ベッドサイドラーニング) 診療参加型臨床実習(クリニカルクラークシップ) 特別講義	診療参加型臨床実習(クリニカルクラークシップ) 特別講義
専門教育科目 人体物質代謝学 ゲノム解析学 解剖学総論 医学概論 統計学・疫学 生命科学演習 免疫学			 <p>全国初 スチューデント・ドクター 【Student Doctor】制度の導入 (2009年から) ※2023年より「スチューデント・ドクター」から「臨床実習生(医学)」に名称が変更になります。</p>		<p>医学生が医行為を実施するにあたり、「スチューデント・ドクター(Student Doctor)」と称して、医師を目指す医学生としての自覚、心構え、医療に携わる人間としての責任感や使命感を再認識させることと併せて、社会及び患者さんに対し、たとえ医学生であっても、それがスチューデント・ドクター(Student Doctor)であれば、一定レベルの知識と技量を有している事を示すことで、その者の医行為を大学(病院)が保証することを目的に実施するものです。</p>
基盤共通教育科目					
導入科目 基幹科目 教養科目 共通科目					

※小白川キャンパス(基盤共通教育科目)と飯田キャンパス(医学基礎教育科目、専門教育科目)の始業時間等が異なります。小白川キャンパス/8:50～(1コマ90分)・飯田キャンパス/8:30～(1コマ100分)

※2023年度開講科目より抜粋

1年次

基盤共通教育ならびに医学基礎教育科目の修得

1年次では、学生が知識・技能や課題探求能力を確実に修得できる「基盤共通教育」を導入し学士課程の基盤となる教育を重点的にを行います。さらに近郊都市の協力のもと救急車に同乗し、救急医療の現場を体験します。

基盤共通教育科目

導入科目

学びのイメージを確立し、学習スキルを修得する

導入科目は、「スタートアップセミナー」と「学部導入セミナー」が開講されます。スタートアップセミナーは、大学での主体的な学修にスムーズに適應できるよう、プレゼンテーションやグループワーク、レポートの書き方、調査・情報収集の方法など主体的・能動的な学修のために必要な技法を修得するための授業です。また「学部導入セミナー」は、学部教育への導入として学部における研究・教育内容等を学び、大学での学習イメージを確立するための授業です。

基幹科目

「人間」・「共生」・「山形」・「現代」を考え、学問のおもしろさに迫る

山形大学生が共通に身につけるべき素養を修得することを目的として、山形大学が教育上、特に重視している「人間」・「共生」・「山形」・「現代」をテーマとして、学問への問題意識を醸成します。
人間を考える・共生を考える：
宇宙観、人権と共生 etc
山形から考える：
地域の知恵と科学の力でエコ社会創り etc
現代を生きる：
現代の問題を学ぶ

教養科目

学問の多様性を知り、知識の幅を広げる

学部・学科や専門分野に関係なく、幅広い学問分野に接し、学ぶことで、広く文化や社会、自然に対する視野を広げます。学問の多様性が体験でき、知識の幅も広がります。「文化と社会」、「自然と科学」、「応用と学際」をテーマとし、各自の学習意欲に応じて自由に科目を選択して学びます。
文化と社会：
日本国憲法、哲学ってどんなこと？ etc
自然と科学：
一般生物学、化学変化を考える etc
応用と学際：
みずから学ぶ2 etc

共通科目

学問の実践に役立つ知識や能力を修得する

学問の実践において必要な知識や能力、またそれを根底から支える健康や体力を身につけます。これらは、卒業後の社会人としての生活にも必須のスキルで、生涯にわたり役立ちます。「コミュニケーション・スキル」、「情報科学」、「健康・スポーツ」、「サイエンス・スキル」、「キャリアデザイン」の5テーマから学びます。
コミュニケーション・スキル：
英語、ドイツ語、フランス語 etc
情報科学：情報処理、データサイエンス(基礎)
健康・スポーツ：
フィットネス、バスケットボール、テニス etc
キャリアデザイン：自己理解 etc

医学基礎教育科目

基礎生命科学

医学の基礎知識として必要となる、化学、生物学、物理学及び生化学について、「医学教育における準備教育モデル・コア・カリキュラム」(平成13年度3月版)に準じて指導します。

早期医学・医療体験学習

救急車に同乗し患者搬送の現場を見学することにより、患者及び家族の状況を理解し、救急医療を実習します。あわせて医療の原点である救急医学の初歩を体験し、医学に対する興味を高揚します。

専門教育科目

ゲノム解析学

核にコードされている遺伝子(塩基配列情報)全体を意味するゲノムは生命の設計図であり、疾患や体質に深く関わります。ゲノム理解が、個別化医療の実現などの医療革新につながると期待されています。個々の遺伝子の構造や機能、遺伝子の解析技術、遺伝・統計理論を学習し、さらに、ゲノムを研究対象とした医学について、考え方や手法、医療へのインパクトを具体的に学びます。

人体物質代謝学

生命を司る最小単位である細胞の活動についての理解があって、はじめて疾患の病因・病態・治療法が正しく理解できるようになります。細胞活動はエネルギー産生を中心とする物質代謝によって担われており、それに関わる遺伝子・酵素・生化学反応、さらに細胞が集まって構成する組織・臓器の働きに関する分子基盤について学びます。講義に加えて、グループに分かれて実習を行うことで、知識の定着を図り、科学的な考え方について学びます。

解剖学総論

専門課程において肉眼解剖学、組織学、神経解剖学を習得するための入門編として、総論的学習を開始します。医学における解剖学学習の意義や、人体を構成する各部分の名称を理解します。また「細胞」を構成する各要素や、「組織」の概念を理解することにより医学全体を習得するための基礎的事項を整理します。

山形大学医学部入学式



- | | |
|---|---------------------------------------------|
| ① | ① 山形大学医学部入学式
山形大学全体の入学式の後、飯田キャンパスで開催します。 |
| ② | ② 救急車搭乗実習
早期医学・医療体験学習で実施します。 |
| ③ | ③ トリアージ訓練への参加
9月の防災訓練で、トリアージ訓練に参加します。 |
| ④ | ④ 基盤共通教育科目の授業
様々な学部の教員により多様な授業が開講されます。 |

2年次

基礎医学全般の修得 医学専門課程の開始

2年次からは医学部および附属病院のある飯田キャンパスで学びます。医学全体の基礎を学ぶため、解剖学をはじめとした基礎医学全般の講義ならびに実習を行います。

主な科目

解剖学 I

講義と4~5名の実習グループによる人体解剖実習により、ヒトの骨、皮膚、皮下、骨格筋、体腔、内臓、血管系、神経系等の肉眼解剖的構造を学びます。人体構造の用語は原則として国際解剖学用語に従い、日本解剖学用語および医学用語との関係を正しく説明する能力も養うことができます。

解剖学 II

解剖学は構造・形態の観点から人体の機能を理解することを目的とするものであると同時に、基礎・臨床を含めた医学全体を習得するためのイントロダクションであるという視点から授業を進めます。人体を構築する様々な器官・組織について顕微鏡による観察、スケッチ及び記述説明を行うことで、略図と文章による表現力も養います。

生理学

生理学は、生体機能とそのメカニズムを明らかにすることを目標とする学問であり、歴史的にも、そして現在においても、医学の基幹となる学問です。人体機能学では、人体の動物性生理機能および植物性生理機能に関して、医学モデル・コア・カリキュラムに沿いながら学習します。細胞レベルの生体機能から器官臓器の機能を経て、個体レベルの人体機能まで、講義と実習を通じて幅広く学習を進めます。

免疫学

免疫系は外界の異物の侵入から身体を守ると同時に、体内に発生する癌細胞を除去するなど、生体の恒常性を保つために必須な機構です。免疫学では、免疫系の仕組みを分子レベルから個体レベルで学び、感染症やアレルギー疾患、癌、免疫不全症、移植医療など、現代の医学、医療において免疫系が関わる様々な課題に対応するための基礎学力をつけることを目標としています。実習では実際に動物を使って免疫応答を観察するなど、理解を深めてもらいます。

微生物学

細菌やウイルス、寄生虫など様々な微生物が、どのようにして生体に侵入し増殖するのか、その結果どのような病気を起こすのかを学びます。実習では実際に微生物を増殖させて、ウイルスが感染した細胞や細菌のコロニーを観察します。増殖した微生物の定量や染色を行うことにより、微生物に対する理解を深めます。

生体薬理学

医療の場において薬物治療は大きな役割を演じているため、薬物について正確に理解することは重要です。薬物はどのようにして薬理作用を発揮するのか、また薬物に対して生体はどのように影響を及ぼすのかについて、講義および実習を通して学びます。

病理学総論

ヒトに発生するあらゆる病気について、その病気が何か、どのようにして発生するのか、どのような経過をたどるのかについて、主として形態学的アプローチ法あるいは分子病態学的思考法で学習します。また、患者さんの身体から採取された病変の組織や細胞から標本を作り、これらを顕微鏡で観察して診断するのが病理診断であり、これらの手法についても実習を行います。

基礎腫瘍学

悪性腫瘍(がん)はほとんど全ての臓器・組織に発生する疾患で、長らく死亡率の最上位を占め続けています。このように広汎かつ重要な疾患であるがんの「本質・本態」について遺伝子・分子のレベルから学習し、将来個々の臓器に発生するがんについて学ぶために必要な基礎的理解を深めます。

局所解剖・画像診断特論

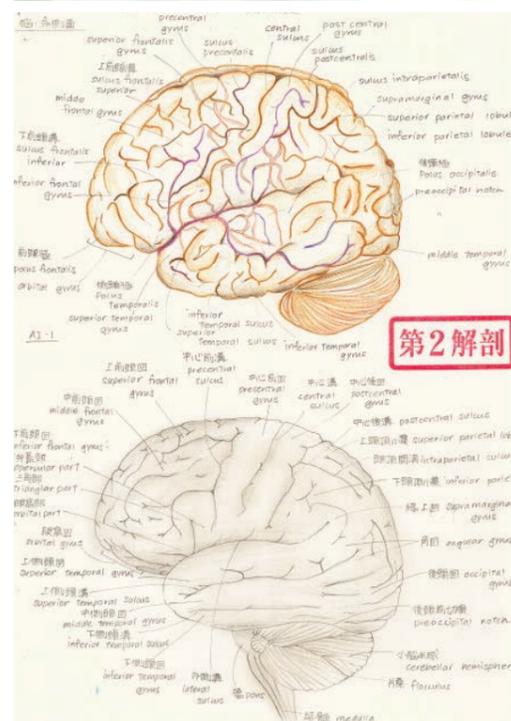
臨床現場で診断や治療手技に直結する局所解剖について、画像と対比して学習します。病的な画像を理解する上で、正常解剖に基づく正常画像所見を理解することはきわめて重要です。臨床に必要な解剖学的事項について臨床科の先生が、正常の画像解剖について放射線診断科の先生が、それぞれ丁寧に解説します。

飯田キャンパスと小白川キャンパス

1年次の授業は、小白川キャンパス(基盤共通教育科目)と飯田キャンパス(医学基礎教育科目・専門教育科目)で開講されることから、曜日により通学するキャンパスが異なりますが、2年次からは毎日飯田キャンパスに通学することになります。

小白川キャンパスは、全学部の1年次生と、人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部の全学生が勉学に励む山形大学のメインキャンパスです。サークル活動などを通して様々な学部の学生と出会い、共に励むことで、充実した学生生活を送ることができるでしょう。

医学部の拠点である飯田キャンパスには、医学科と看護学科のほか、県内最大規模の病院である医学部附属病院があります。医師、看護師、病院スタッフなどたくさんの方が行き交うキャンパスには、医学部独特の雰囲気があり、自分が目指している世界を常に感じつつ、同じ志を持つ仲間達と勉学に励んでいきます。



- | | |
|---|---|
| ① | ④ |
| ② | ③ |
- ① 人体模型を用いた授業 (解剖学第一講座)
 - ② 解剖学のスケッチ風景 (解剖学第二講座)
 - ③ 脳のスケッチ

2年次では、解剖学をはじめ様々な講義の中で医学の基礎的知識を整理するとともに、実習をとおして講義で得られた知識を確認し、人体の構造と機能を実学として理解を深め、また、生命科学の進歩を支える基本的な方法論を学びます。

3年次

臨床医学と社会医学の入門 魅力あふれる研究室研修

2年次に学んだ医学的基礎知識をもとに、臨床系・基礎系の統合型講義による臓器別学習を行います。ここでは学生が少人数グループに分かれ、自ら課題を見つけ解決する学習体制も取り入れています。さらに一定期間各研究室で医学の最前線の研究活動を体験するコースも設けられています。

主な科目

臓器疾患学

各臓器にみられる異常について、異常のメカニズムや診断・治療法の講義、PBL（課題解決型学習）、実習を行います。

基本診断学

臓器別コースの学習に必要な疾患の基礎的な知識等について、次の3つのポイントによる授業を行います。

1. 各疾患の理解に必要な臨床解剖
2. 各疾患の理解に必要な病態生理（薬理を含む）
3. 診断法の基礎的知識（画像、内視鏡等）

循環器コース

心不全、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性心疾患、動脈疾患、静脈・リンパ管疾患、高血圧症等

血液コース

貧血、白血病と類縁疾患、悪性リンパ腫と骨髄腫、出血傾向・紫斑病、脾臓疾患等

呼吸器コース

呼吸不全、低酸素（血）症と高二酸化炭素（血）症、呼吸器感染症、閉塞性・拘束性障害をきたす肺疾患、肺循環障害、免疫学的機序による肺疾患、肺癌、気管支拡張症とその他の肺疾患、胸膜・縦隔疾患等

腎・尿路コース

腎不全、原発性糸球体疾患、腎血管障害、尿管機能異常、間質性腎疾患、全身性疾患による腎障害、先天異常、腫瘍と外傷、尿路疾患等

内分泌・栄養代謝コース

視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺（上皮小体）疾患とカルシウム代謝異常、副腎皮質・髄質疾患、糖代謝異常、脂質代謝異常、タンパク質および核酸代謝異常、ビタミンの欠乏と過剰、先天性代謝疾患等

消化管コース

食道疾患、胃・十二指腸疾患、小腸・大腸疾患等

肝・胆・膵コース

胆道疾患、肝疾患、膵臓疾患、腹膜・腹壁・横隔膜疾患等

生殖器コース

男性生殖器疾患、女性生殖器疾患等

周産期（含新生児）コース

周産期系に関わる臓器の構造と機能、および周産期疾患等

神経コース

脳・脊髄血管障害、認知症と変性疾患、感染性・炎症性・脱髄性疾患、脳・脊髄腫瘍、頭部外傷、末梢神経疾患、筋疾患、発作性疾患、先天性と周産期脳障害等

運動器コース

四肢と脊柱の構造と機能、各部位の外傷や疾病等

感覚器コース

視覚病態学分野、耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野等

精神系コース

精神障害に関する知識を修得するのみでなく、身体医学でも必要になる患者の心理、患者・医師関係等

皮膚コース1

創傷治癒、組織移植、再建術、先天性形態異常、急性創傷、慢性創傷等

皮膚コース2

湿疹・皮膚炎群、じんま疹、紅斑症、紅皮症と皮膚掻痒症、紫斑・血流障害と血管炎、薬疹・薬物障害、水疱症と膿疱症、乾癬と角化症、母斑、腫瘍と色素異常、皮膚感染症、全身疾患等

病理学各論

人体各器官の正常構造、疾病の病態生理、病理所見

社会医学・医療学

疾病予防、生活習慣病、温度や騒音などの環境や食品・住居がもたらす生体への影響、産業保健、学校・母子保健、医学統計学について学びます。講義と共に実習も予定しています。

研究室研修

2～4名単位で希望する研究室に配属され、4週間1日中配属された教室で過ごします。内容は研究室により千差万別ですが、実験を行い論文を作成する研究室、文献を読み内容を発表する研究室、講義で習った検査や手技を実際に体験する研究室などがあります。



- | | | |
|---|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | ⑤ | ① 臓器疾患学（消化管コース）の授業
（内科学第二講座） |
| ② | ⑤ | 講義の他に、具体的な症例等を基にした課題についてグループ学習・発表形式の授業も行い、問題解決能力も身につけられるよう工夫がなされています。 |
| ③ | | ② 医学部図書館 |
| ④ | | ③ 本県唯一の医学部の図書館として、医学及び看護学関係の資料の充実に努めています。文献検索用として、医学中央雑誌Web版等データベースやメディカルオンライン等電子ジャーナルを利用できます。
※2023年度改修、2024年11月より開館予定 |
| | | ④ 基礎棟
講義室、実習室や基礎系講座の研究室等があります。 |

4年次

臨床医学の知識の修得と病院実習の開始

臓器別コースで獲得した知識をさらに統合するために、全身性疾患学の学習を行います。8月・9月には全国共通に行われる「臨床実習開始前の共用試験」が実施されます。この共用試験は令和5年度から公的化されています。この試験は、医学的知識を問う「CBT」(8月)と患者に接する態度・技能を試す「Primary OSCE」(9月)から構成されるもので、学内試験とともに臨床実習を行うに必要な知識と技能が審査され、この試験の結果が一定基準に達していることが見学型臨床実習(ベッドサイドラーニング)開始資格基準となっています。臨床実習生(医学)として認定後は、10月から附属病院で外来および病棟での臨床実習を行います。

主な科目

全身性疾患学

概ね診療分野毎にコースが分かれ、症状、診断、治療について学びます。また、一部のコースでは複数の診療科や基礎医学系の講座が相互に講義を担当します。

[内科系]

(内科一、内科二、内科三、精神、小児)コース

[外科系]

(外科一、外科二、脳外、整形、皮膚、泌尿器、眼科、耳鼻科、形成外科)コース

[感染症]

[免疫・アレルギー]

[成長・発達・遺伝・発生]

[加齢・死・環境]

基本診療学

放射線
麻酔
救急
リハビリテーション

基本診療技能学

各科での臨床実習を開始するに当たり、本学部附属病院の診療システムの概要を理解するとともに、実際の医療を実践するために必要な症状から病態を推察できる診察法、検査法の理解、患者と接する際の医師としてのマナー、面接技法、身体診察技法の基本を学習します。

社会医学・医療学

衛生・公衆衛生学と法医学の講義を行います。疫学、疾病対策、衛生・医療・福祉行政、老人保健、精神保健及び医事法制、異状死体とその取り扱い、損傷の見方、中毒分析、個人識別とDNA鑑定など社会的な関心の強い内容が多くなっています。

総合医学演習

【漢方東洋医学】
【臨床腫瘍学】
【地域医療学】
【医学・医療原論】

通常の系統講義ではカバーできない、東洋医学や悪性腫瘍の横断的な診断・治療学について学びます。

地域医療を取り巻く制度的な枠組みについて学んだ上で、地域医療の現状と今後の課題についての理解を深め、地域医療に貢献するための基礎的知識を身につけます。

医療安全、チーム医療、医療裁判など医療の基本原則に関わる問題点とともに、それを解決し、より充実した体制を築く方策について模索していきます。

臨床実習

山形大学医学部附属病院で、臨床実習生(医学)として実際の診察、検査や治療の見学や体験をします。

これまでの講義で学び蓄えた知識を実際の臨床現場で確認し、多くの疾患の診断法、検査や治療法についての理解を深めます。4年次10月からは見学型臨床実習(ベッドサイドラーニング)が開始され、多くの患者さんと接することによって、患者さんに対するマナーや患者さんを思いやることのできる医師になるための心構えについて学びます。

医師の専門分野は？

病院に行くと、内科や外科など、様々な診療科があります。それぞれの診療科には専門の医師やスタッフがいて、診察や手術などを行っています。それでは、医師の専門分野はどのように決まってしまうのでしょうか。

入学してから卒業までは、医学のすべての分野について勉強をしていきます。学年が進むにつれて、より専門的な分野に触れていくことになるので、自分の希望する専門分野について、徐々にイメージが具体的になってくることでしょう。また、4年次の10月からは附属病院で見学型臨床実習(ベッドサイドラーニング)が始まり、さらに5年次の10月からは診療参加型臨床実習(クリニカルクラークシップ)が始まります。各診療科等での経験を積み重ね、自分の希望する診療科がより明確になってくるはずです。

卒業が決まり、医師国家試験に合格すると、自分の希望とマッチングした病院で2年間の初期臨床研修を受けることになります。(P10、P28参照)この頃から、それぞれの専門別の道に分かれていきます。これから受験を控えている皆さんにとってはまだまだ先の話ですが、晴れて入学した後は、自分の専門についてじっくり考えてみてください。



- | | |
|---|---|
| ① | ④ |
| ② | |
| ③ | |
- ① 顕微鏡を用いた極小血管の吻合実習(ドライラボ)
(脳神経外科講座)
 - ② メディカルスキルアップラボラトリー
世界最高水準の医療シミュレーター教育を提供しています。
 - ③ 出産の実習(産科婦人科学講座)
 - ④ 微生物の実習(検査部)

10月から始まる臨床実習では、5年生の7月までの間、山形大学医学部附属病院の20の診療科で学びます。

5年次

全国と比べ、より長期にわたる充実した臨床実習

引き続き、各診療科の臨床実習を行い、全科の診療を学習します。

ベッドサイドラニングからクリニカルクラークシップへ

5年次からは、4年次に引き続きベッドサイドラニング (bed side learning) と呼ばれる病院実習が行われます。ベッドサイドラニングでは、4年次10月から5年次8月までの間で20の診療科を各々2週間ずつ学びます。この実習は、これまでの講義で学び蓄えた知識を実際の臨床現場で確認し、多くの疾患の診断法、検査や治療法についての理解を深めることを目的に行われます。また、多くの患者さんと接することによって、患者さんに対するマナーや患者さんを思いやることのできる医師になるための心構えについても学びます。この実習ではじめて患者さんと接し、講義などの机上での学習では学ぶことのできないことも学び、医師の歩むべき第一歩として、様々な経験を積む場でもあります。また、ベッドサイドラニング終了後には5年次試験が行われます。この結果が一定水準以上に達していることが、クリニカルクラークシップ開始資格判定基準のひとつとなっています。

ベッドサイドラニング実習を行う診療科

第一内科	第一外科	小児科	眼科	救急医学
第二内科	第二外科	整形外科	皮膚科	統合型臨床医学 1 (形成・薬剤部・第三内科)
第三内科	脳神経外科	泌尿器科	放射線科	統合型臨床医学 2 (病理・検査・腫瘍内科)
精神科	産科婦人科	耳鼻咽喉・頭頸部外科	麻酔科	

クリニカルクラークシップ実習

全てのベッドサイドラニング実習が終了したところで、診療参加型実習であるクリニカルクラークシップ (clinical clerkship) 実習に入ります。

このクリニカルクラークシップは、臨床医の前段階としての診療行為を積極的に実施することによって、より深く実診を学ぶことを目標としており、32週間 (5年次10月～6年次6月) にわたって行われます。ここでは、19の診療科および広域連携臨床実習関連病院の中から4週間ずつ興味のある8つの診療科を実習することになります。

山形大学医学部附属病院では、32週のうち20週間の実習を行います。同じ番号のグループから1診療科を実習します。

1 グループ

第一内科
第二外科
泌尿器科

2 グループ

第二内科
第一外科
統合型臨床医学
(病理・腫瘍内科)

3 グループ

第三内科
脳神経外科
整形外科・リハビリテーション科

4 グループ

小児科
産婦人科
麻酔科
救急医学

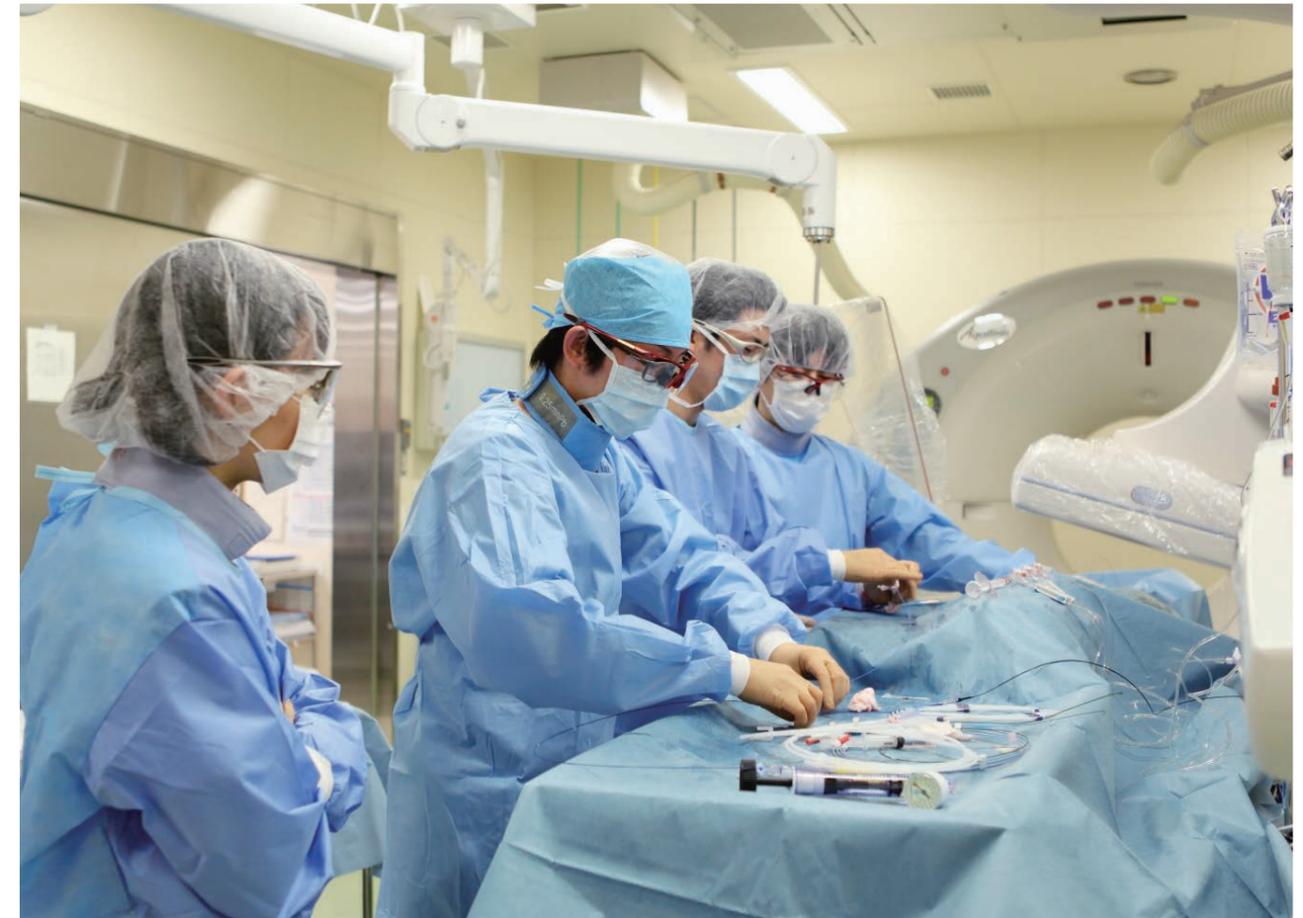
5 グループ

精神科
皮膚科
眼科
耳鼻咽喉・頭頸部外科

学外関連病院では、32週のうち12週間の実習を行います。関連病院から3つの病院を選択し、4週間ずつ実習を行います。

広域連携臨床実習関連病院

日本海総合病院	県立中央病院	山形市立病院済生館
寒河江市立病院	鶴岡市立荘内病院	県立新庄病院
山形済生病院	篠田総合病院	米沢市立病院
東北中央病院	公立置賜総合病院	三友堂病院
県立河北病院	庄内余目病院	北村山公立病院



- | | |
|---|---|
| ① | ④ |
| ② | ⑤ |
| ③ | |
- ① 心臓カテーテル (内科学第一講座)
 - ② 血圧ガス測定 (外科学第一講座)
 - ③ 採血実習 (検査部)
 - ④ 術前・術後検討 (外科学第二講座)
 - ⑤ 麻酔科

5年次10月から6年次6月までの実習では、診療チームの一員として診療業務を分担しながら、医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学んでいきます。

6年次

医療チームの一員として診療に携わり、2月の国家試験へ

全診療科での臨床実習後、自己選択型の高度臨床実習(クリニカルクラークシップ)を行います。本学ではクリニカルクラークシップの施行に当たり、法律に基づいて「学生に許容される医行為の範囲」を厳格に定め積極的な臨床技能の獲得に特に力を入れています。

クリニカルクラークシップから卒業試験・特別講義、医師国家試験、晴れて卒業

6年次では、5年次に引き続き、クリニカルクラークシップを6月まで行います。

ベッドサイドラーニングに比べ、クリニカルクラークシップは1診療科等につき4週間と長い期間を設けており、実際に医療チームの一員として患者さんの診療に携わります。患者さんの同意のもとで、医師とともに診察し治療計画を考え、必要な検査や手術にも加わり、カルテの記載も行います。この実習を経験することで、医師になってからも戸惑うことなくスムーズに初期研修に入ることができます。

クリニカルクラークシップを終えると、Post-CC OSCE (臨床実習終了時客観的臨床能力試験)を経て、第1回～第4回までの卒業試験が始まります。10月には特別講義が行われ、各々の苦手分野の克服、これまで学んできた知識の整理を行い、6年間の集大成として万全な状態で2月の国家試験に備えます。そして、3月には晴れて卒業を迎えます。

Post-CC OSCE (臨床実習終了時客観的臨床能力試験)

すべての臨床実習が終了すると、「Post-CC OSCE」により、卒業後の臨床研修において必要とされる臨床能力を習得できているか、評価を受けます。

「Post-CC OSCE」は、これまで行ってきた臨床実習で培った能力についての「客観的臨床能力試験」です。模擬患者を対象に、医療面接・身体診察・情報の整理などを行い、医師に必要な診療技能や患者さんに接する態度等の評価を行います。

この試験に合格し、かつ卒業試験にも合格し卒業予定者になれば、いよいよ医師国家試験に備えることになります。

医師国家試験

卒業試験にも合格し卒業予定者になると、医師国家試験を受験します。

医師国家試験は、厚生労働省が実施する試験です。毎年2月に2日間の日程で全国13の試験会場において一斉に行われ、東北地区では仙台で試験が実施されています。

山形大学医学部の卒業生は6年間の学修の成果を大いに発揮し、例年高い合格率となっています。

医師国家試験に合格すると、医師免許の交付を受け、医師としての第一歩を踏み出すことになります。

6年生の一年間

4月	4月▶6月 クリニカルクラークシップ	10月	10月▶11月 特別講義
5月		11月	第4回卒業試験
6月		12月	12月下旬 卒業予定者発表
7月	7月 Post-CC OSCE		12月上旬▶1月上旬 冬季休業
8月	8月▶10月 第1～3回卒業試験 (夏季休業 7月下旬～8月下旬)	1月	
9月		2月	2月 医師国家試験
		3月	3月 学位記授与式 (卒業式)



- | | | |
|---|---|------------------------|
| ① | ② | ① 縫合実習
(外科学第一講座) |
| ③ | | |
| ④ | | ③ 腹腔鏡手術
(腎泌尿器外科学講座) |
| ⑤ | | ④ 内視鏡検査
(内科学第二講座) |
| | | ⑤ 腹部エコー
(内科学第二講座) |

先輩からのメッセージ

充実したカリキュラム



▶ 荻野ひかるさん
《群馬県立前橋女子高等学校》

1年次の授業は、基盤科目と医学科の専門科目が並行して行われます。基盤科目は自分の興味のある科目を履修することができ、さらに全学部共通の授業であるため、多くの学生と交流できる良い機会となります。医学科の専門科目では、人体物質代謝学やゲノム解析学といった基礎医学を学びます。また実際の医療現場で働いている先生方が、各診療科についての講義をしてくださる医学概論という授業や、早期医学・医療体験実習などもあります。1年次は解剖や臨床医学など、いわゆる“医学部に入ったから役に立つ実感が湧きにくいと言われることが多いですが、山形大学ではそのようなことはありません。医学に触れる機会の多い充実したカリキュラムと、教育熱心な先生方のおかげで自分のモチベーションを高く維持することができるのは、山形大学の大きな魅力だと思います。

受験勉強は辛いことが多いかもしれませんが、そこで得た知識は医学科に入ってからも大いに役立ちます。そしてさらに、そのとき培った勉強習慣は、医学生になった自分を必ず助けてくれます。自分を信じて最後まで戦い抜いてください。山形大学でともに学べることを楽しみにしています。

友人達と切磋琢磨

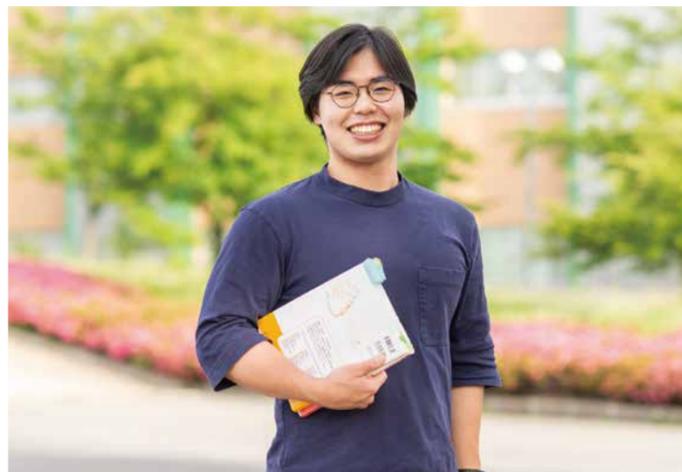


▶ 高石李紅さん
《武蔵野大学高等学校》

2年生からは主に人体の正常な構造や機能についてを、飯田キャンパスで学びます。専門的な医学の知識を講義で学ぶだけではなく、解剖実習や組織のスケッチといった実習もあります。座学で学んだことを自分の手で実際に見つける楽しさを感じることができることも、知識をより深めることができました。解剖実習では、実際にご遺体に触れることができ、医師を志している者として気持ちが引き締まりました。2年生は、基礎医学のことを多く学び、覚える量が多い上に、実習や試験に追われる忙しい日々が続きますが、友人達と助け合って勉強したことは良い思い出です。また、山形大学医学部医学科では、先生方が本当に多くのことを教えてくださいます。実際に臨床で働いている先生や研究をしている先生から話を聞くことで、より勉強にも身が入りました。

受験勉強ではなかなか結果があらわれず、先が見えず辛い時もあるかもしれませんが、努力してきたことは、必ずこれからの人生の糧となります。ぜひ全力で勉強して後悔のない受験生を送ってください。そして、飯田キャンパスで会えることを楽しみにしています。

意思疎通の大切さを学ぶ



▶ 日下部悠人さん
《山形県立山形東高等学校》

3年生では座学が中心となり、疾患を扱う臨床医学を勉強することになります。講義ではそれぞれの疾患について、病態、症状、検査や治療などを学びます。臨床医学では基礎医学で習った全ての科目が総合的に互いに組み合わさって出てきます。そのため基礎医学の知識を総動員させ、それらを疾患へと有機的に結びつけるプロセスがとても重要となります。座学に加えてケーススタディというグループ学習もあります。これは与えられた症例に関する設問をグループごとに調べて検討し、そして発表します。私はこのケーススタディを通して疾患に対する理解や知識に加え、グループで作業を進めるうえでの意思疎通の大切さや伝わりやすい発表の仕方の工夫なども学ぶことができました。また夏頃には1ヶ月間に渡って研究室研修があり、非常に多様な選択肢の中から自分の興味のある講座を選んでそこに配属し、研究や実習を行いました。

最後に、受験勉強はとても大変だと思いますが受験を通して培われた勉強に対する姿勢や粘り強さは大学入学後も絶対に生きてきます。そのためどうか最後まで諦めずひたむきに頑張ってください。一生懸命努力して合格した瞬間にはきっと個性豊かで魅力的な仲間達が待っているはずです。

将来の方向性が見えてくる



▶ 江島優太さん
《神奈川県立厚木高等学校》

4年生の前期では3年生に続いて臨床に関する座学が続きます。法医学や東洋医学、地域医療等様々なことについて学ぶことが出来るので自分にとって何が興味があるのか面白いのか考える機会を得ることが出来ると思います。8、9月には今後、公的化される医学部の共用試験であるCBTとOSCEがあり、それぞれ座学と実習のテストになります。全国単位で評価されるテストであり、また実習のテストもあるという事で殆どの人にとって初めてであり緊張してしまうと思います。それを乗り越えようと今度はStudent Doctorとして大学病院で実習が始まります。2週間ごとに診療科が変わり、手術見学など今までの座学で得た知識が実際の臨床現場でどの様に生かされているのか学ぶ事ができます。また、これから医師になっていくという実感と共に責任感も生まれてくると思います。山形大学では共用試験が夏に行われるので病院での実習を長く行うことができます。実習を通して自分がどのような医師になりたいか、実際に働いておられる先生方の姿を見ながら考えるのも良いと思います。受験勉強大変だと思いますが最後まで走りきって頑張ってください。

知見を広げるチャンス



▶ 植田日向子さん
《愛知県立横須賀高等学校》

5年生は1年を通して実習が行われる学年です。7月までは4年生の延長の見学型臨床実習(ベッドサイドラーニング)ですが、2ヶ月の夏季休暇を挟み、10月からいよいよ診療参加型臨床実習(クリニカルクラークシップ)が始まります。クリニカルクラークシップでは、興味のある科をより深く長く学ぶことができます。科によって勉強できることは様々ですが、山形大学には「この先生のもとで学びたい!」と思うような魅力的な先生が多数いらっしゃいます。どの科を回っても充実した4週間を過ごすことができるでしょう。また、大学以外の病院(広域連携臨床実習関連病院)を回った際には、大学病院とは違った環境で知見を広げることができます。

臨床実習の特徴として、一人の患者さんを割り当てられ、その疾患について深く学ぶとともに、詳しくお話を聞いてカルテを書いたり発表したりする、というものがあります。山形の患者さんは快く学生実習に協力してくださる方が多く、聴診させてくださったり、拙い問診にも応じてくださったりして、そういった方々のお陰で私達は成長できるのだと日々実感しています。

心強いサポートで国家試験突破



▶ 横山優作さん
《山形県立米沢興譲館高等学校》

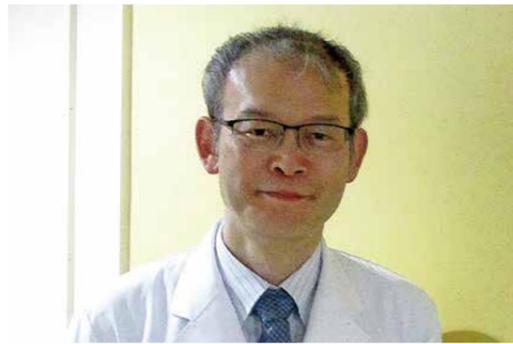
6年生になると、クリニカルクラークシップもいよいよ終盤となります。振り返ると、実習が始まって間もない頃はまだ右も左も分からず、実臨床の現場で新たな知識を吸収するのに精一杯でした。

しかし時間が経つにつれ、先生方の熱心な指導の下、様々な手技の経験やカンファレンスでの症例プレゼンなどを通し、「診療科の一員となる」という意識で実習に臨むことができるようになりました。これは山形大学の教育体制や、実習の選択の自由度があるからこそ成し得るものだと思います。

病院実習が終了すると、これまでの総まとめとも言える実技試験POST-CC OSCEや、初期研修院を決めるマッチング試験、卒業試験があり、あとは国家試験まで全力疾走です。6年生には希望のグループごとに学習室が割り当てられるため、整った学習環境の中、仲間と共に教え合い、励まし合いながら戦うことができます。また、先生方は、学習面でのアドバイスはもちろん、メンタル面でも学生に寄り添ってサポートしてくださいました。

つらい時期もありましたが、このような支えの下、晴れて医師になることができました。皆さんも山形大学で医師を目指してみませんか? 御入学を心よりお待ちしております。

卒業臨床研修



卒業臨床研修の特徴

山形大学医学部附属病院卒業臨床研修センターは、平成16年度の卒業臨床研修必修化に先立ち、平成14年春に設置されました。これまで459名の初期臨床研修医が研修を修了し、次のステップに向けて進んでいます。当センターでは、山形大学医学部附属病院で初期臨床研修をされる皆さんが質の高い充実した研修を受けられるように、特に以下の点を重点課題として取り組んでいます。

卒業臨床研修センター長 **太田康之教授**

〈 個々人に合わせた研修プログラム 〉

新専門医制度に十分対応した研修ができるよう、できるだけ自由度をもたせたプログラムを用意しています。山形県内の主な研修病院はすべて協力病院として登録されており、大学病院と市中病院の双方で研修することができます。

〈 指導体制の充実 〉

各研修科の指導医による教育に加えて、すべての臨床科より選抜された24名の医師によって構成される卒業臨床研修センター「教員会」の先生方が一人ひとりの研修医の受け持ちとなります。研修の進捗状況の把握と助言だけでなく、生活に関する相談など、きめ細かい指導をしています。

〈 研修環境の整備 〉

レジデントハウス(宿舎)や個人用デスクを備えた研修医室が整備され、院内には24時間体制の保育所やコンビニなども設置されており、研修しやすい環境が整っています。また、講習会等の参加費や学会・研究会等に係る旅費の支給制度を活用し、自身のスキルアップも可能です。病院の再整備も終了し、最先端の設備を駆使した高度な医療の提供を行っています。

山形大学医学部の卒業臨床研修について

山形大学医学部附属病院では、「卒業臨床研修センター」が2年間の初期臨床研修のお世話をしています。われわれの卒業臨床研修プログラムの一例を次に示します。このプログラムの特徴は、1年目から希望科の研修を可能として自由度をもたせ、将来の専門性も考えた研修を行えることです。新たな専門医制度に対応済みで、研修中に幅広い経験ができるよう配慮します。

また、希望科を決めていない研修医については、2年目に大学病院自由枠を最長7ヵ月設定し、研修1年目の12月までに研修する診療科を決定できます。既に研修する希望科を決めてある場合でも大学病院希望科枠では、診療科の変更が可能です。

大学病院と一般病院での研修にはそれぞれに特徴があります。

両者の利点を最大限活用するために、当院では地域の研修協力病院を最長で12ヵ月まわられる「たすきがけプログラム」を実施しています。希望に応じて最適な研修先を選択することができます。

研修においては、指導体制が重要です。山形大学医学部では各分野のエキスパートが研修の指導にあたっています。研修医向けの実践的なセミナーや各種研究会も定期的に関われ、多角的に研修を進めることができます。キャンサートリートメントボードでは関連する診療科の医師が一堂に会して意見を出しあい治療方針を決定します。このように総合的な診療能力をつけるのに最適な環境が整っています。



オリエンテーション 採血



オリエンテーション CVカテ



集合写真

卒業臨床研修プログラム

プログラムの例

1年目				2年目							
内科	内科	救急	希望科	地域医療	外科	小児科	産婦人科	精神科	希望科	希望科	希望科
(大学・協力病院)				(大学・協力病院)							
3か月	3か月	3か月	3か月	1か月	1か月	1か月	1か月	1か月	1か月	3か月	3か月

- 3か月ごとのブロックで順番は自由に入れ替え可能。
- 研修期間全体の1年以上は、大学病院で研修を行う。
- 最初の3か月は大学病院で研修を行う。

多数の研修協力病院で多様な臨床研修が可能

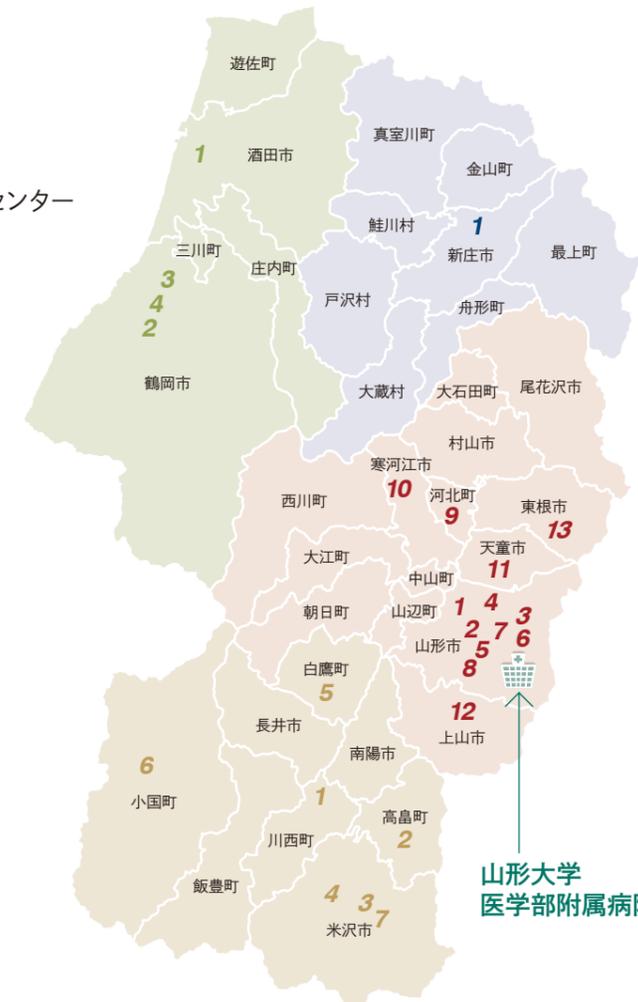
山形県内

庄内

1. 日本海総合病院
2. 県立こころの医療センター
3. 鶴岡市立荘内病院
4. 鶴岡協立病院

置賜

1. 公立置賜総合病院
2. 公立高島病院
3. 米沢市立病院
4. 三友堂病院
5. 白鷹町立病院
6. 小国町立病院
7. 国立病院機構米沢病院



最上

1. 県立新庄病院

村山

1. 国立病院機構山形病院
2. 山形済生病院
3. 県立中央病院
4. 千歳篠田病院
5. 篠田総合病院
6. 東北中央病院
7. 山形市立病院済生館
8. 二本松会山形さくら町病院
9. 県立河北病院
10. 寒河江市立病院
11. 秋野病院
12. みゆき会病院
13. 北村山公立病院

山形県外

- 宮城県石巻赤十字病院

最高の景色をもとめて 歩き続ける

せっかく大学生になったのならおもしろい趣味にのめりこみませんか?
一生続けられるスポーツ、登山。山に囲まれた山形は最高の場所です!



ワンダーフォーゲル部

■活動：土、日どちらか、または両日
■主な行事：4～11月までの無雪期に日帰りor泊まり
12～3月はスキー、スノボ、個人で冬期登山も



Club&Circle サークル活動に夢中!



硬式テニス部



ソフトテニス部



準硬式野球部



剣道部



フットサル部



ハンドボール部



ソフトボール部



合気道部



室内合奏団



聖書研究会



Sound Room (軽音学部)



同窓会新聞部

何かに夢中になれる時間は、学生生活を
より楽しく充実したものにしてくれるはず!



バレーボール部



卓球部



バスケットボール部



サッカー部



映画部



DoD (ダンス部)



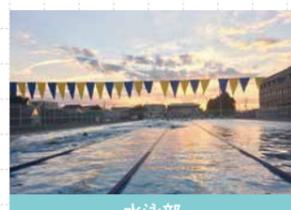
YMSA (Yamagata Medical Student Association)



少林寺拳法部



空手道部



水泳部



ラグビー部



陸上競技部



柔道部



ゴルフ部



ヨット部



弓道部



バドミントン部



競技スキー部

Fight



「知のスポーツ」にトライ!

将棋部

週2日、将棋を指しています。将棋を極めたい人も、たまに指す程度の人も過ごしやすい環境です。
初心者への指導は勿論、詰将棋などの解き合いを行って、将棋を楽しんでいます!
初心者の方から有段者まで、今日の将棋ブームにのってみませんか?

■練習：週2日
■主な行事、大会：11月にある職場団体対抗戦



学生生活データ

充実した奨学金制度・福利厚生施設

初年度納付金	
入学金(予定額)	282,000円
授業料(予定額)	535,800円
学生教育研究災害傷害保険 (学研災付帯賠償責任保険特約を含む)	7,800円 (6年間)
学研災※付帯学生生活総合保険 (6年間)	51,050円 (6年間)
医学科後援会(6年間)	89,000円
医学科同窓会(入会金)	50,000円
山形大学小白川サークル会(1年次のみ)	2,000円
山形大学校友会会費(生涯会費)	10,000円
英語力強化経費	5,990円
合計	1,033,640円

- 1 入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合は、改定時から新たな納付金額が適用されます。
- 2 入学金免除・授業料免除制度
経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業成績優秀と認められる学生は、願い出により選考の上、入学金・授業料の全額または半額を免除する制度があります。
- 3 授業料支払い方法
①年1回一括払い、②年2回払い、③年10回均等払い、④年10回ボーナス併用払いの4つから選択することが可能です。
※記載以外に3つのタイプがあります。

奨学金

本学部で取り扱っている奨学金は、日本学生支援機構、地方公共団体、民間奨学団体、各病院のものがあります。これらの奨学金においては、いずれも学業・人物ともに優れ、かつ健康であって、経済的理由により学資の支弁が困難であると認められる者が対象になっています。また、住民税非課税世帯またはそれに準ずる世帯で意欲ある学生に対して、返還が不要な給付型の奨学金があります。別途、大学に申請を行うことで、授業料等の免除も同様を受けることができます。

日本学生支援機構奨学金(2023年度の場合)

貸与型(種類)	貸与月額(希望額を選択)
第一種奨学金(無利子)	自宅通学者 20,000円 / 30,000円 / 45,000円
	自宅外通学者 20,000円 / 30,000円 / 40,000円 / 51,000円
第二種奨学金(有利子)	20,000円～120,000円までの1万円単位で選択

給付型(種類)	給付月額	
	自宅通学	自宅外通学
第Ⅰ区分	29,200円 (33,300円)	66,700円
第Ⅱ区分	19,500円 (22,200円)	44,500円
第Ⅲ区分	9,800円 (11,100円)	22,300円

※カッコ内は生活保護世帯等の金額

山形県医師修学資金(2023年度の場合)

種類	貸与年額
地域医療従事医師確保修学資金 (大学卒業後、山形県内の医師の確保が必要な地域に勤務する意思を有していること等)	200万円
特定診療科医師確保修学資金 (大学卒業後、山形県内の医師の確保が必要な診療科(小児科・産婦人科・放射線科・麻酔科・救急医療)に従事する意思を有していること)	200万円

山形大学山澤進奨学金

平成19年度から開始された山形大学独自の奨学金で、年額60万円が返還不要で6年間支給されます。さらに、同奨学金に採用された方は、入学金と支給期間の授業料が全額免除になります。採用条件は、先に述べたことに加え、卒業後山形県内で4年間働くことを確約していただける方となります。詳しくは山形大学のホームページでご確認ください。

保険

本学部では、学生が安心して学生生活を送ることができるよう、正課を受けている間、大学行事に参加している間、課外活動を行っている間または通学中・施設間移動中における不慮の災害事故を補償する「学生教育研究災害傷害保険」のほか、教育研究活動中に他人にケガを負わせたり、他人の物を壊すなどしたことにより発生した損害賠償責任を補償する「学研災付帯賠償責任保険」にも加入いただいております。

また、さらに臨床実習中の感染事故、針刺し事故等をも補償対象とする「学研災付帯学生生活総合保険」にも加入いただいております。

学生相談室

キャンパス内に学生相談室を設置し、カウンセラー(臨床心理士)が学生のみなさんのどんな悩み・心配事についても相談を受け、学生生活をサポートしています。毎年、多くの学生が学生相談室を活用しています。

福利厚生施設

学生・教職員のための福利厚生施設として、医学部会館に食堂・売店・理髪店等が設置されているほか、附属病院内にコンビニ・コーヒーショップ・カフェテリア・郵便局・ATM等が設置されています。

また、24時間保育所が国立大学医学部の中で、全国に先駆けてオープンし、女性の教職員がより一層働きやすくなりました。

学生寮

遠方から入学してくる学生のために山形市内に3つの学生寮があります。入寮の願い出の方法など詳細は合格通知の際にお知らせします。

寮名	定員	居室形態	寄宿料/月
清明寮	男子 213名 女子 87名	個室	18,000円
北辰寮	男子 80名	個室	4,300円
紫苑寮	女子 80名	個室	12,000円

※上記のほか、各寮の規則及び負担区分に関する基準により光熱水料を負担することになります。

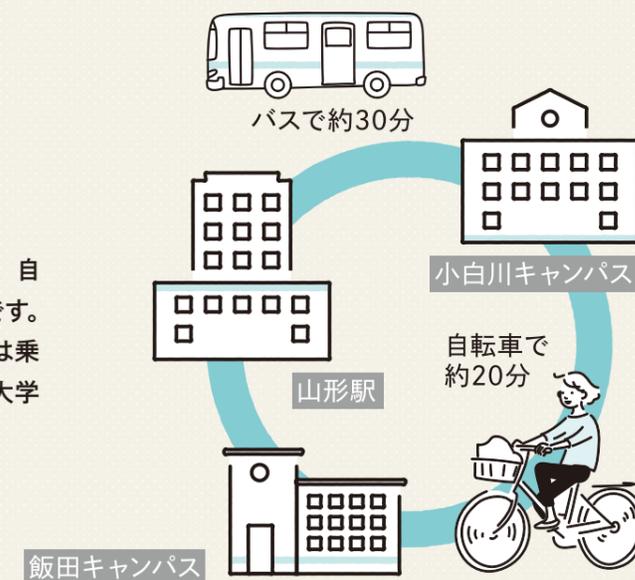
? 先輩教えて *Please tell me!*

Q アパート等に住む場合は、小白川キャンパス周辺と飯田キャンパスどちらがよいですか?

A 1年生のうち、多くの講義が小白川キャンパスですが、1週間に1回から2回、飯田キャンパスでの講義があります。2年生からは、すべて飯田キャンパスでの講義になるため、1年生のうちから飯田キャンパス周辺に居住する学生が多いです。

Q 小白川キャンパスと飯田キャンパスの間は、どうやって移動していますか?

A 小白川キャンパスと飯田キャンパスの間は、自転車やバスを使って移動する学生が多いです。自転車の場合は20分程度、バスの場合は乗り換え含めて30分程度かかります。なお大学には学生用の駐車場はありません。

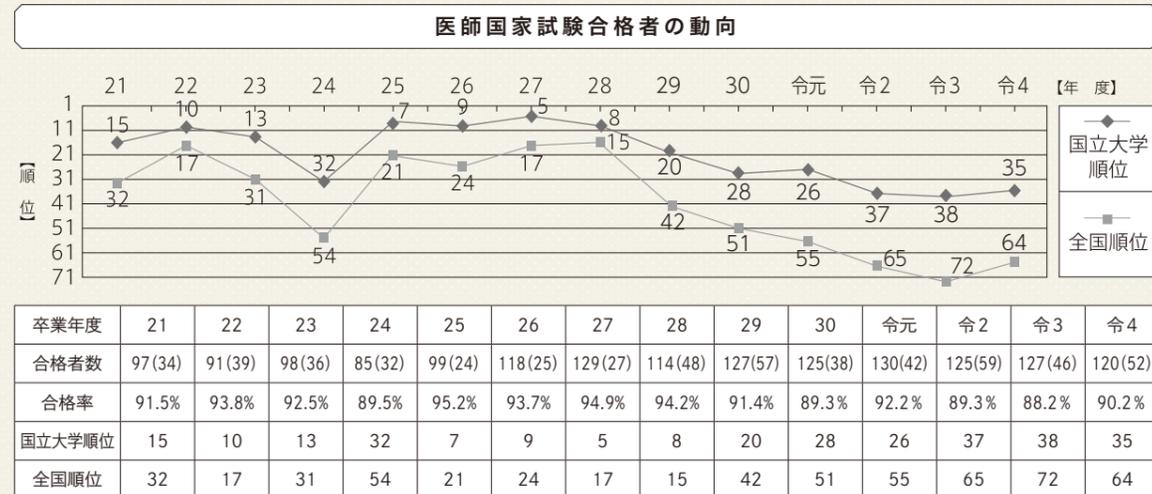


入学試験データ・医師国家試験データ

日程	入学定員	志願者			受験者			合格者			入学者		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
学校推薦型選抜Ⅱ	25	63	62	125	63	62	125	17	8	25	17	8	25
一般選抜（前期）	73	211	164	375	186	146	332	49	24	73	47	24	71
一般選抜（後期）	15	208	121	329	79	69	148	12	6	18	13	4	17
私費外国人留学生入試	若干	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	113	482	347	829	328	277	605	78	38	116	77	36	113

年度	実施方式	募集人員	志願者数			倍率
			男	女	計	
平成 31	前期	75	167	115	282	3.8
	後期	15	146	63	209	13.9
令和 2	前期	65	153	117	270	4.2
	後期	15	123	69	192	12.8
令和 3	前期	73	138	103	241	3.3
	後期	15	95	52	147	9.8
令和 4	前期	73	219	167	386	5.3
	後期	15	181	88	269	17.9
令和 5	前期	73	211	164	375	5.1
	後期	15	208	121	329	21.9

年度	募集人員	男	女	合計	倍率
平成 31	30	76	68	144	4.8
令和 2	25	49	54	103	4.1
令和 3	25	50	58	108	4.3
令和 4	25	58	55	113	4.5
令和 5	25	63	62	125	5.0



※（ ）内は女子で数内

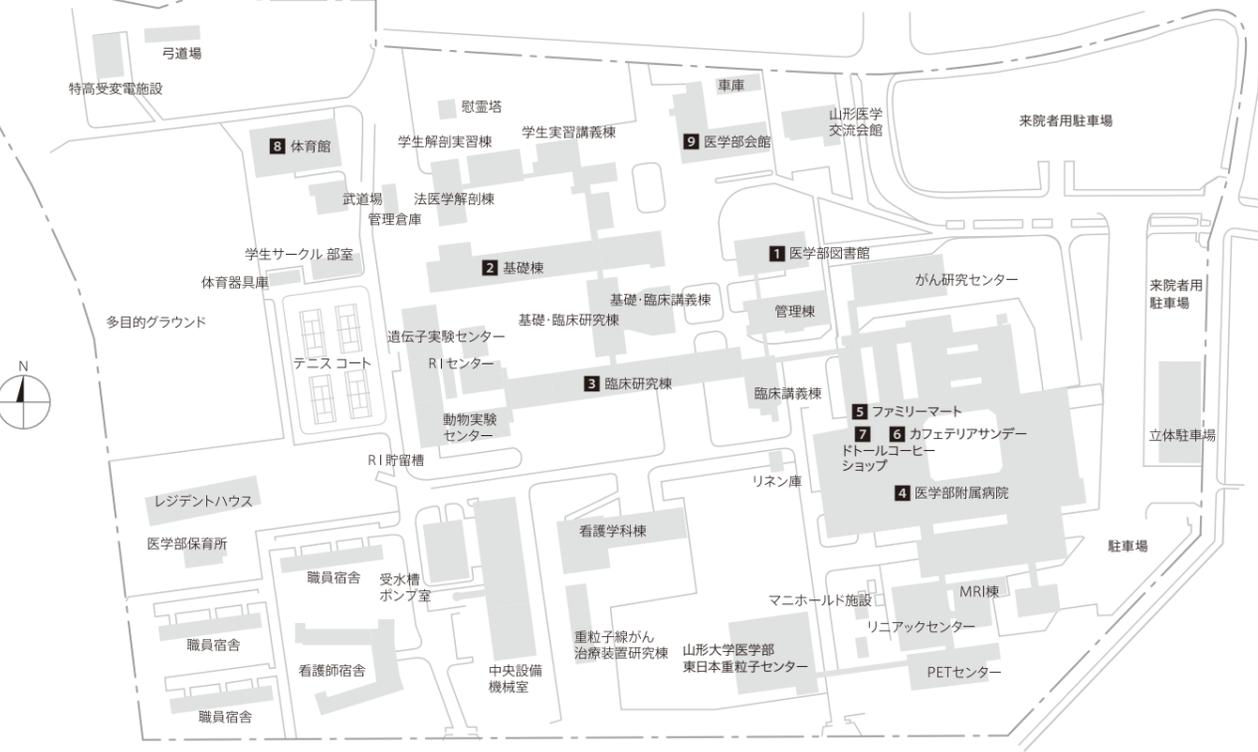
医学科学生の出身高校等

全国から優秀な学生が入学する山形大学医学部

- 北海道**
帯広柏葉／帯広三条／旭川東／岩見沢東／室蘭栄／札幌北／札幌南／札幌西／札幌東／札幌旭丘／釧路湖陵／北広島／北嶺／函館ラ・サール／札幌聖心女子学院／北見北斗／札幌光星／立命館慶祥
- 青森県**
青森／弘前／八戸／三本木／五所川原／八戸北／青森東／東奥義塾
- 岩手県**
盛岡第一／盛岡第三／盛岡北／花巻北／水沢／釜石南／盛岡白百合学園／一関第一
- 宮城県**
仙台第一／仙台第二／仙台南／佐沼／白石／宮城第一／第二女子／泉館山／仙台南／宮城野／仙台育英学園／東北学院／秀光／石巻／古川学園／築館／仙台二華／気仙沼／仙台第三／古川／仙台白百合学園／古川黎明／聖ウルスラ学院英智／仙台青陵
- 秋田県**
本荘／秋田／能代／横手
- 山形県**
山形東／山形南／山形西／山形中央／寒河江／新庄北／米沢興譲館／米沢東／長井／鶴岡南／酒田東／南陽／日本大学山形／羽黒／米沢中央／東桜学園
- 福島県**
福島(県立)／福島女子／安積／安積女子／安積黎明／白河／会津／磐城／磐城女子／相馬／橋／会津若松ザベリオ学園
- 茨城県**
水戸第一／土浦第一／土浦第二／竹園／茨城／清真正学園／江戸川学園取手／水戸葵陵／鹿島学園／下妻第一／牛久米進／水城／江戸川学園／茗溪学園／竜ヶ崎第一／日立第一／並木／第一学院(高荻校)／霞ヶ浦／常総学院／那珂
- 栃木県**
宇都宮／宇都宮女子／宇都宮東／石橋／栃木／足利／足利女子／大田原／國學院大学栃木／佐野日本大学／矢板東／栃木女子／作新学院／真岡／文星芸術大学附属／佐野／大田原女子／栃木翔南
- 群馬県**
前橋(県立)／前橋女子／高崎／高崎女子／桐生／中央／太田(県立)／桐生南／新島学園／沼田／渋川／太田(市立)／四ツ葉学園
- 埼玉県**
越谷北／大宮開成／関智／浦和(県立)／川越(県立)／川越女子／熊谷女子／春日部／春日部共栄／浦和第一女子／本庄東／栄東／秀明／西武学園文理／樹徳／浦和明の星女子／関智／大宮／芝浦工業大学柏／熊谷西／淑徳与野／昌平／和光国際／星野／浦和(市立)
- 千葉県**
柏(県立)／千葉(県立)／船橋(県立)／東葛飾／成田／市川／東邦大学付属東邦／渋谷教育学園幕張／千葉東／麗澤／暁星国際／志学館高等部／佐倉／長生／銚子(市立)／市原中央／匠達／木更津／国府台女子学院高等部／東京学園／稲毛／専修大学松戸／昭和学院秀英／芝浦工業大学柏
- 東京都**
筑波大学附属／お茶の水女子大学附属／東京学芸大学附属／国立／小山台／立川／戸山／東京都立大学附属／西／八王子東／日比谷／両国／暁星／女子学院／麻布／芝／頌栄女子学院／海城／成城／早稲田／渋谷教育学園渋谷／桜蔭／開成／攻玉社／足立学園／駒場東邦／世田谷学園／巣鴨／本郷／淑徳／立教女子学院／豊島岡女子学園／城北(私立)／武蔵(私立)／創価／桐朋／吉祥女子／国際基督教大学／明治大学付属中野八王子／南多摩／武蔵(都立)／共立女子／晃華学園／成蹊／小松川／駒場／白百合学園／鷗友学園女子／穎明館／筑波大学附属駒場／学習院女子高等科／大妻／東洋英和女学院高等部／錦城／雙葉／中央大学附属(小金井市)／江戸川女子／東京電機大学／国學院大学久我山／光塩女子学院高等科／新宿／田園調布雙葉／
- 富士見／大泉／多摩大学附属聖ヶ丘／桜修館／帝京／九段／広尾学園／東京都立大学付属／聖徳学園／武蔵野大学高校／三田／小石川／青稜
- 神奈川県**
神奈川大学附属／横浜翠嵐／柏陽／瀬谷／横須賀(県立)／湘南／フェリス学院／横浜雙葉／聖光学院／関東学院／横浜緑ヶ丘／厚木／浅野／桐蔭学園／日本女子大学附属／栄光学園／清泉女子学院／多摩／サレジオ学院／川崎総合科学／山手学院／桐光学園／公文国際学園高等部／横浜共立学園／小田原／横浜国際／鎌倉女子学院／湘南工科大学附属／川和／森村学園高等部／相模原／逗子開成／鎌倉学園／慶應義塾／洗足学園／湘南学園／湘南白百合学園／横須賀学院／桜丘／平塚
- 新潟県**
新発田／新潟南／新潟明訓／村上／新潟／長岡／三条／高田／国際情報／新潟第一／燕／柏崎／佐渡／津南
- 富山県**
富山中
- 石川県**
金沢大学教育学部附属／羽咋／金沢錦丘
- 山梨県**
甲府南／甲陵／駿台甲府／吉田／甲府第一
- 長野県**
伊那北／長野(県立)／上田／諏訪清陵／松本深志／佐久長聖／飯田
- 岐阜県**
可児／斐太／岐阜北／加茂／岐阜／恵那／鶯谷
- 静岡県**
清水東／静岡／榛原／袋井／沼津東／浜松北／浜松西／不二聖心女子学院／浜松日体／富士／浜松学芸／加藤学園暁秀
- 愛知県**
明和／瑞陵／岡崎／時習館／成章／高蔵寺／東海／南山／滝／春日丘／旭丘／刈谷北／岡崎北／千種／旭野／向陽／西尾／一宮／名古屋／国府／金城学院／横須賀／名古屋大学教育学部附属／名東
- 三重県**
四日市／暁／桑名／木本／津／伊勢／川越
- 滋賀県**
膳所
- 京都府**
大谷／洛星／洛南
- 大阪府**
大阪教育大学附属池田／天王寺／明星／大谷／清風／高槻／四天王寺／茨木／大阪教育大学附属天王寺／開明／四條畷／生野／高津／住吉／三国丘／大阪桐蔭／大阪教育大学附属平野／豊中／関西大学高等部／大手前／清風南海
- 兵庫県**
須磨学園／北摂三田／神戸／白陵／兵庫／灘／加古川東／甲陽学院／宝塚北
- 奈良県**
東大寺学園／西大和学園／智辯学園奈良カレッジ高等部／帝塚山
- 和歌山県**
智辯学園和歌山／桐蔭
- 鳥取県**
米子東
- 島根県**
松江北
- 岡山県**
金光学園／倉敷青陵／岡山城東／岡山吉泉／
- 岡山白陵／岡山操山
- 広島県**
広島学院／近畿大学附属福山／広島大学附属／広島／AICJ
- 徳島県**
城東／徳島市立／徳島文理
- 香川県**
高松
- 愛媛県**
愛光
- 高知県**
土佐
- 福岡県**
久留米大学附設／小倉／福岡／明善／筑紫学園／筑紫丘／修猷館
- 佐賀県**
弘学館／東明館
- 長崎県**
青雲／長崎西／佐世保西
- 熊本県**
真和
- 大分県**
大分東明
- 宮崎県**
都城泉ヶ丘
- 鹿児島県**
鶴丸／池田学園池田／ラ・サール
- 沖縄県**
開邦／沖縄尚学／昭和薬科大学附属／那覇



キャンパスマップ



ACCESS

Taxi

山形駅 タクシー(約10分) 山形大学医学部

Bus

山形駅【山形駅前】 「大学病院・東海大山形高」行きバス(約15分) 大学病院下車
 仙台 高速バス(約1時間) 山形駅【山形駅前】
 山形空港 山形空港シャトル(約35分) 山形駅【山形駅前】

Car

浦和IC 東北自動車道(3時間10分) 村田JCT 山形自動車道(約30分) 山形蔵王IC (約15分) 山形大学医学部

Train

東京駅 山形新幹線(約2時間50分) 山形駅

Airplane

新千歳空港【北海道】 (約1時間15分) 山形空港
 羽田空港【東京】 (約1時間) 山形空港
 名古屋空港【愛知】 (約1時間) 山形空港
 伊丹空港【大阪】 (約1時間15分) 山形空港

※各種公共交通機関はダイヤが変動する場合がありますので、最新情報をご確認ください。





山形大学 医学部

<https://www2.id.yamagata-u.ac.jp/>



山形大学 医学部 学務課 (入試担当)

〒990-9585 山形市飯田西 2-2-2

TEL 023-628-5049

FAX 023-628-5058

E-mail yu-igagakuso@jm.kj.yamagata-u.ac.jp